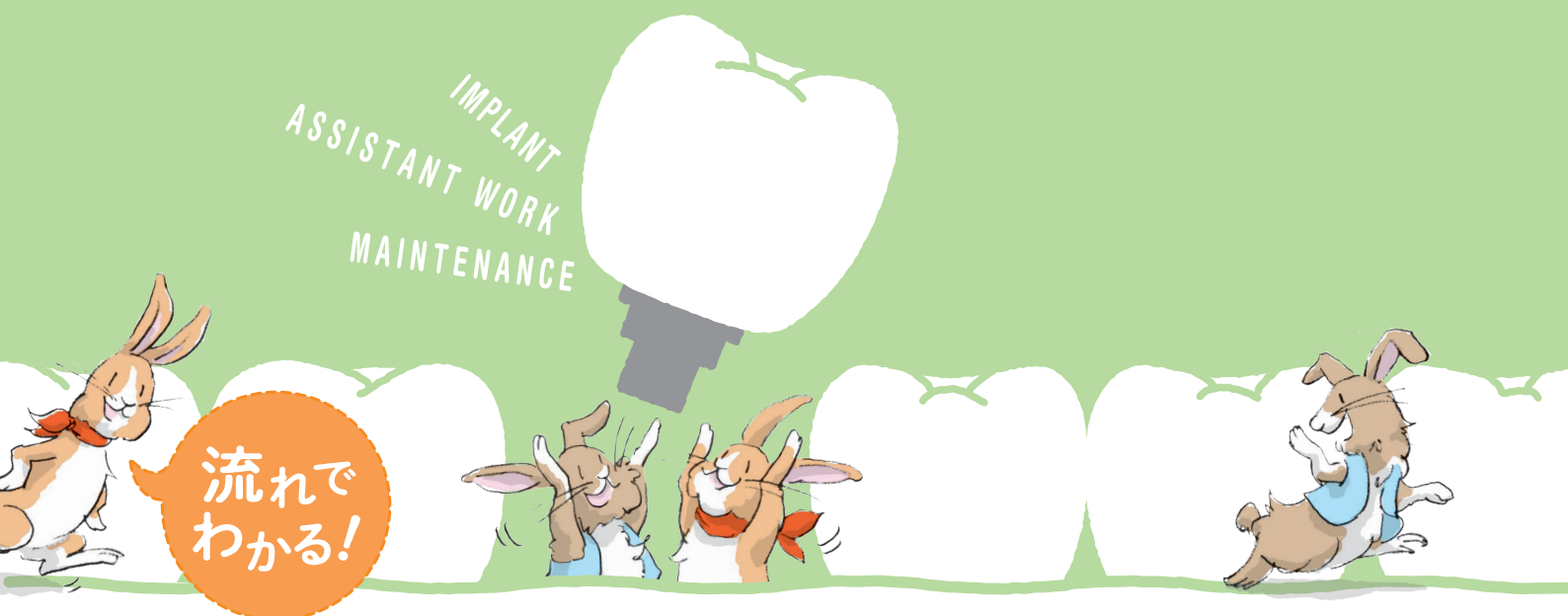


小宮山彌太郎 監修／山口千緒里 執筆

デンタルハイジーン 別冊 傑作選



インプラントの アシスタントワーク・メンテナンス

医歯薬出版株式会社



インプラント療法の概要・流れ

1 基本構造

顎骨内に埋入し骨と結合する部分をインプラント体（フィクスチャー）、インプラント体に連結され粘膜を貫通する部品をアバットメント、歯冠部分は上部構造とよばれます。大別してセメント固定用とスクリュー固定用があり、それぞれ構造が異なります(図3)。インプラントを支台・維持装置とした可撤性の義歯は、インプラントオーバーデンチャーとよばれています(図4)。

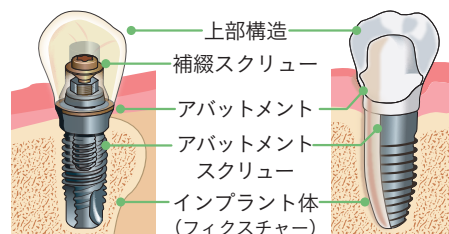


図3：スクリュー固定（左）とセメント固定（右）



図4：インプラントオーバーデンチャー

2 素材を知る

①インプラント体

インプラント体の素材には、チタン、チタン合金が使用されることが多く、その表面性状は中等度の粗面に加工されているものが主流です。機械仕上げとよばれる表面に加工がされていないものや、粗面と機械仕上げの両方を組み合わせたハイブリッドタイプもあります(図5)。中等度の粗面では、入り組んだ表面の形状から、骨との接触面積が多く強固な結合が期待できますが、反面、インプラント周囲組織に感染が生じ、骨吸収をきたした場合には機械仕上げと比較してコントロールが難しいため、感染させない注意が重要です(図6)。

②アバットメント

アバットメントの素材にはチタン、チタン合金や審美性を考慮したセラミック、ジルコニアがあります。



図5：①機械仕上げ，②中等度の粗面，③ハイブリッド

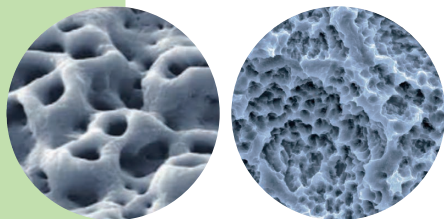


図6：中等度の粗面インプラント表面拡大写真

NBJ社：Tiunite(左) Straumann社：SLA(右)

③上部構造

上部構造には、セラミック、ハイブリッドレジン、既製人工歯、金属咬合面、ジルコニアなどさまざまな素材が用いられています。それぞれの利点欠点を考慮し、機能性や審美性に合わせて選択します(図7)。



図7：上部構造の材質

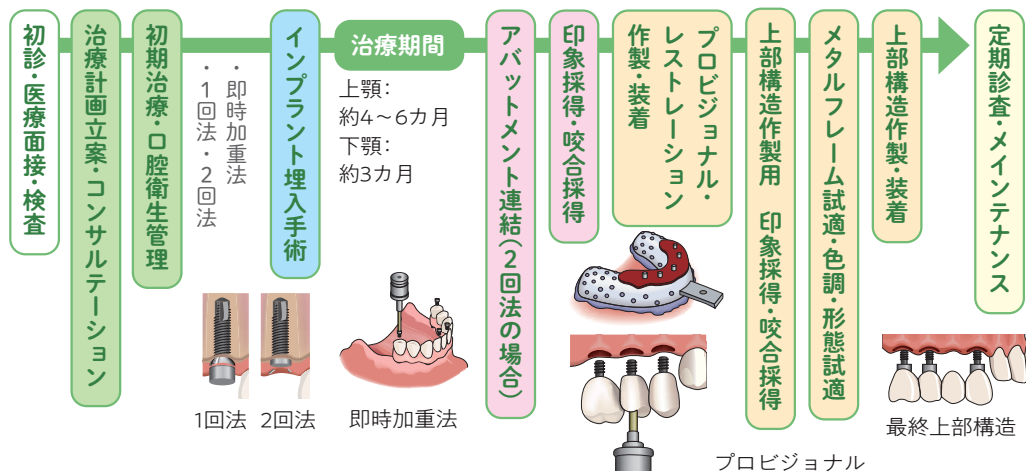
3 インプラント療法の流れ

インプラント療法は、大きく分けて、初診から初期治療、インプラント埋入手術・治癒期間、上部構造作製期間、メンテナンス期があります(図8)。

初診時の医療面接では、患者さんの訴えを把握し、全身状態や口腔内の状況を検査します。それらの結果を踏まえて治療計画を立案し、患者さんに十分な説明を行います。患者さんが治療の同意をした後、まずは口腔衛生管理を行います。口腔内の環境を改善することは、その後の治療を円滑に進めるためには欠かせません。

インプラント埋入手術には、1回法、2回法、即時加重法があります。骨質や咬合状態、患者さんの希望によって選択されます。1回法はインプラント埋入手術時にアバットメント連結まで行う方法で、2回法はインプラント埋入後、オッセオインテグレーションを獲得するまでの治癒期間中はアバットメントを連結せずに、粘膜で覆います。即時加重法はインプ

図8：インプラント療法のおおまかな流れ



chapter
1



インプラントとは

安心な治療には時間がかかるんだね



インプラント 埋入手術前注意事項

：患者さんに対しての事前説明

口腔の衛生状態が安定し、インプラント埋入手術の準備が整った患者さんは、術前の注意事項を説明するため、日程調整を行い、書面と口頭で確認します。

1 来院日時の確認

術前の準備も考慮し、ゆとりをもたせた時間を設定するようにしましょう。

静脈内鎮静法を併用する場合には、手術前の食事制限（午前中開始手術では朝食，午後開始手術では昼食），水分は約1時間前までに摂取をすませていただくよう伝えます。また，患者さん自身が運転する車での来院は，避けていただくことも忘れず伝えなければいけません。

来院の手段やつき添いの有無も事前に確認しておこう！



2 服用薬

日常的な服用薬がある患者さんの場合，事前にかかりつけ医に対診をとり指示を仰ぎます。休薬等の指示はその薬を処方している主治医が決定するものであり，歯科医院や患者さんの勝手な判断で休薬してはいけません。

患者さんが準備している緊急薬剤がある場合には，手術当日に忘れずに持参していただきます。

術後処方する薬についてもアレルギーがないか，現在服用中の薬と重複しないか，併用禁忌のものがないかなど，前もって確認しておきましょう。





1 当日までの器材準備

術前には、各種機器が正常に機能するかどうかの確認や、必要な材料の発注を行います。術中に使用する酸素や笑気、静脈鎮静に使用する薬剤などの残量も確認しておきます(図10)。当日直前の確認では、不具合があった場合、対処が間に合わない恐れがあるため、少なくとも手術予定日の3日前までに確認しておきます。手術室内の无影灯やシャウカステン、X線用モニタ、エンジン機器や生体情報モニタなども同様に作動確認を行います。



埋入エンジンなどの作動確認



酸素や笑気の残量の確認



図10：手術室



生体情報モニタ

当日術前の 患者対応と準備



1 手術の流れ (図1, 2)

少なくとも、インプラント埋入手術の1週間前までに、患者さんの口腔内衛生を良好な状態にしておく必要があります。歯周基本治療を完了させ、当日の術前にはスケーリングなどの観血処置は避けます。

図1:インプラント埋入手術のための術前準備(一例)

1週間前 当日の流れ

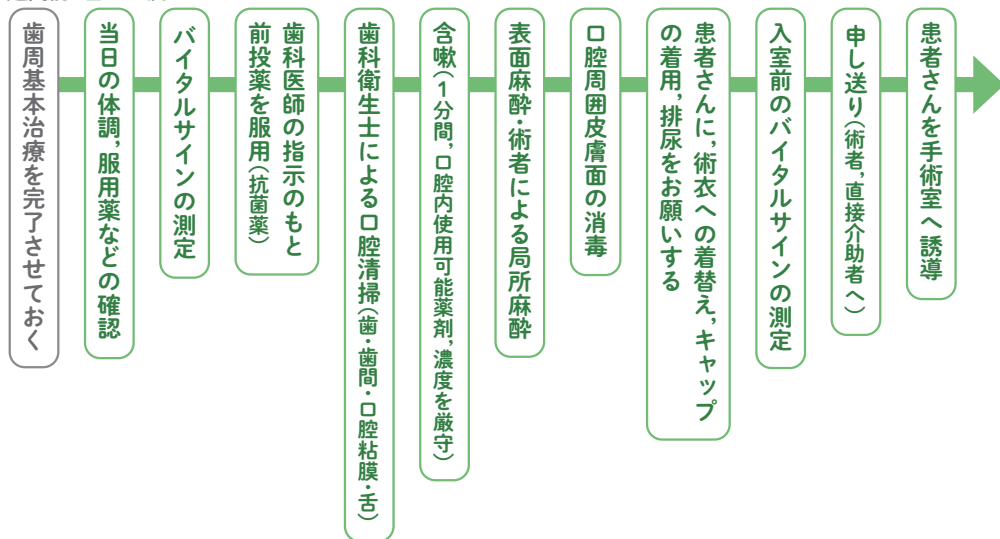


図2:インプラント埋入手術のための術前ドレーピング(一例)

